

工業部会長報告

工業部会・第11回ものづくり技術連携交流会は、3月3日（金）ホール80において部会員30名が出席し開催いたしました。

情報提供では、(株)五十鈴製作所より企業概要と当社製品について紹介していただき、引き続き、関係機関からの情報提供として、秋田県産業技術センターおよび秋田産学官ネットワークより、連携事例の紹介等をしていただきました。その後、参加者による意見交換・懇親会を行いました。



【情報交換の様子】

(1) 情報提供

①(株)五十鈴製作所【各種産業機械、鋳造設備等設計・製作・販売】

グループリーダー 水沢 和雄 氏

企業概要および当社製品・技術について下記の通り講話しました。

- ・昭和24年に愛知県で設立し、秋田工場は平成3年より稼働している。
- ・自社内一括生産で製品装置を作り上げており、打合せから始まり「設計→溶接加工→機械加工→組立→配線配管→試運転→出荷→設置」まで全て担っている。
- ・当社の3本柱として、「鋳造」「自動化」「化学・環境」が挙げられる。
- ・鋳造では、主に自動車部品のシリンダーヘッドやシリンダーブロック、アルミホイールなどを製造する低圧鋳造機の製造を行っており、これまで累計900台を製造し出荷している。
- ・鋳造機において、これまでは油圧式を使用していたが、最近ではサーボ式を使用していることにより、これまでの電力量を60～70%低く抑えることが出来ている。
- ・機械およびロボットにより、自動化された製造ラインで使用する装置を製造しており、化学・環境として、コイル材酸洗設備と製造工程で発生する排ガス処理のための設備（スクラバー）を製造している。
- ・太陽光追尾集光発電システム「SU:V0」の製品開発も進めており、一部市町村向けに納入している。
- ・当社の課題として、
 - 【1】油圧用溶接配管施工業者が県内に不在であり、模索している。
 - 【2】鋼材調達納期が本社に比べ遅くなっており、短納期での依頼が増えていることから、他工程へのしわ寄せが発生している。
 - 【3】納入先が北関東以南に多いことから、装置輸送費の負担が大きい。という課題を抱えており、改善策があれば紹介していただきたい。

②秋田県産業技術センター 技術イノベーション部 千葉 さおり 氏 連携事例について下記の通り紹介しました。

- ・秋田県の航空機産業参入支援の取り組みとして、平成18年12月に県内5社で発足された「秋田輸送機コンソーシアム」の統括をしている。成果として、【1】県内6社が航空機部品製造に関わる認証を取得、【2】県北企業が日本で初めてNadcap（メッキ後の研磨工程）を取得、【3】航空機内装設備（ギャレー）の受注に成功、【4】20社が新たに航空機産業に参入などが挙げられる。
- ・医療機器産業振興（医工連携）の取り組みとして、AMIネットワークを設立し医工連携を進めており、秋田県と秋田大学が覚書を締結し、医工連携を推進した結果、術中免疫組織染色装置（短時間で正確にがん診断が出来る装置）の開発を行った。

③秋田産学官ネットワーク シニアコーディネーター 有明 順 氏 連携事例および現在の取り組みについて下記の通り紹介しました。

- ・《事例紹介》秋田大学と(株)アクトラスが連携し、県や国の補助金を活用し、高精度・高速測定が可能な点滴センサの商品化に取り組んだ。これまでに5,000台以上の販売実績がある。
- ・あきた産学官金総結集新産業創出事業として、首都圏等の大学などのユニット研究室を本県に誘致する推進事業を進めている。今年度、東京工業大学と物質・材料研究機構の2研究室を誘致し、次年度より3年かけて共同研究を実施する。ユニット研究室の募集活動は、次年度も実施予定である。

以上が、工業部会からの報告です。